

科目区分： 臨床実習

令和7年度

科 目 名	総合臨床実習Ⅰ	単位数	8	学科	理学昼間	期	後期
		時間数	360	学年	4	区分	必修

担 当 教 員	佐々木康大	実務 経験	専任教員は、臨床実習における指導経験を有する。実習指導者は臨床に5年以上従事し、正規の審査・登録を経ている。
概 要	専門科目およびこれまでの臨地実習にて身に付けた知識・技術と経験を基礎とし、臨床実習指導者の監督・指導の下で理学療法評価、理学療法プログラム立案と実施、理学療法プログラム実施後の再評価に伴うプログラムの見直しなど、一連の理学療法プロセスを経験する。さらに、チーム医療体制の中での理学療法士の役割、他職種連携を総合的に理解する。また、 実習前・実習後の評価要領 に基づいた、学生評価情報を臨床実習指導者と共有し、より効果的な教育へ繋げる。		
一般目標（GIO）	日本理学療法士協会が「臨床実習の手引き」で提示する水準1に該当する臨床行為について、臨床実習指導者の監督・指導の下で実施すべき項目を対象者へ不利益なく安全に行える。F-4）また、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割や関連職種との連携について理解し、 通所リハ、訪問リハ指導要領 に基づき対象者への理学療法を見学、一部を経験することを目指す。F-5）		

教 科 書	配布資料
参 考 書 ・ 教 材	「臨床実習指導要領」（当校作成） 適宜 資料を配布する
履 修 上 の 注 意 点	配布資料、「臨床実習指導要領」の内容を理解し、事前の準備に努めること。 実習期間中は自己管理（体調、睡眠時間）に努めること。実習生という立場であるが、診療チームの一員として対象者の利益になれるよう行動すること。

実施回	授業内容	対応 CC	担当教員
	オリエンテーション：実習日程、進め方、課題、成果の確認方法について		佐々木
	臨地実習	F-1) F-2) F-3) F-4) F-5)	臨床実習 指導者
	学内報告会、面談		全担当教員

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	報告会	○	評価基準：臨地実習への出席率80%以上で成績評定の資格を得る。 評価方法：60%以上および出席率や学内報告会、面談などで成果を 基に総合的に評定する。
	面談	○	

科目区分： 臨床実習

令和7年度

科 目 名	総合臨床実習Ⅱ	単位数	8	学科	理学昼間	期	後期
		時間数	360	学年	4	区分	必修

担 当 教 員	佐々木康大	実務 経験	専任教員は、臨床実習における指導経験を有する。実習指導者は臨床に5年以上従事し、正規の審査・登録を経ている。
概 要	専門科目およびこれまでの臨地実習にて身に付けた知識・技術と経験を基礎とし、臨床実習指導者の監督・指導の下で理学療法評価、理学療法プログラム立案と実施、理学療法プログラム実施後の再評価に伴うプログラムの見直しなど、一連の理学療法プロセスを経験する。さらに、チーム医療体制の中での理学療法士の役割、他職種連携を総合的に理解する。また、 実習前・実習後の評価要領 に基づいた、学生評価情報を臨床実習指導者と共有し、より効果的な教育へ繋げる。		
一般目標（GIO）	日本理学療法士協会が「臨床実習の手引き」で提示する水準1に該当する臨床行為について、臨床実習指導者の監督・指導の下で実施すべき項目を対象者へ不利益なく安全に行える。F-4）また、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割や関連職種との連携について理解し、 通所リハ、訪問リハ指導要領 に基づき対象者への理学療法を見学、一部を経験することを目指す。F-5）		

教 科 書	配布資料
参 考 書 ・ 教 材	「臨床実習指導要領」（当校作成） 適宜 資料を配布する
履 修 上 の 注 意 点	配布資料、「臨床実習指導要領」の内容を理解し、事前の準備に努めること。 実習期間中は自己管理（体調、睡眠時間）に努めること。実習生という立場であるが、診療チームの一員として対象者の利益になれるよう行動すること。

実施回	授業内容	対応 CC	担当教員
	オリエンテーション：実習日程、進め方、課題、成果の確認方法について		佐々木
	臨地実習	F-1) F-2) F-3) F-4) F-5)	臨床実習 指導者
	学内報告会、面談		全担当教員

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	報告会	○	評価基準：臨地実習への出席率80%以上で成績評定の資格を得る。 評価方法：60%以上および出席率や学内報告会、面談などで成果を 基に総合的に評定する。
	面談	○	

科目区分： 理学療法治療学

令和7年度

科 目 名	臨床理学療法学演習Ⅰ（症例研究）	単位数	2	学科	理学夜間	期	前期
		時間数	60	学年	4	区分	必修

科目担当責任者	佐々木康大	実務 経歴	中枢神経系疾患の臨床および地域リハビリテーションへの展開に5年以上携わってきた。当校においても中枢神経障害系理学療法学、地域理学療法学の教育を担当している。
担 当 教 員	佐々木康大		
概 要	理学療法を行う上で必要な治療に関わる知識、技術を演習・修得する。		
一般目標（GIO）	国家試験問題を中心に理解し、基礎から臨床まで幅広く理解してもらうことを目標とする		

教科書	
参考書・教材	他 適宜資料を配布する。
履修上の注意点	

実施回	授業内容	対応 CC	担当教員
1・2	整形外科理学療法	E-6-1	佐々木
3・4	物理療法	E-5-2	佐々木
5・6	理学療法評価①	E-4-1	佐々木
7・8	装具学（各疾患に対する装具）	E-5-3	佐々木
9・10	理学療法研究法等	E-5-5	佐々木
11・12	理学療法評価②	E-4-1	佐々木
13・14	理学療法概論	E-1-1	佐々木
15・16	脳血管障害	D-9	佐々木
17・18	脳血管障害の検査・治療、高次脳機能障害	E-6-2	佐々木
19・20	内部障害理学療法(呼吸器疾患)	E-6-5	佐々木
21・22	内部障害理学療法(循環器疾患)	E-6-5	佐々木
23・24	内部障害理学療法(循環器疾患)	E-6-5	佐々木
25・26	内部障害理学療法(循環器疾患)	E-6-5	佐々木
27・28	義肢学	E-6-4	佐々木
29・30	発達系理学療法学	E-6-4	佐々木

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	小テスト		評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：授業中の小テストを実施し、評価する。

科目区分： 理学療法治療学

令和7年度

科 目 名	臨床理学療法学演習Ⅱ(応用臨床)	単位数	2	学科	理学夜間	期	前期
		時間数	60	学年	4	区分	必修

科目担当責任者	佐々木康大	実務 経歴	中枢神経系疾患の臨床および地域リハビリテーションへの展開に5年以上携わってきた。当校においても中枢神経障害系理学療法学、地域理学療法学の教育を担当している。
担 当 教 員	佐々木康大		
概 要	総合実習（臨地実習）へ向け理学療法評価の一連の流れを理解し、基本的な検査・測定などの理学療法評価を健常人に対して安全に実施できる能力を養う。		
一般目標（GI0）	EBPTにつながる基本として、理学療法士が行う検査測定結果から目標設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。E-3)		

教科書	
参考書・教材	他 適宜資料を配布する。
履修上の注意点	

実施回	授業内容	対応 CC	担当教員
1・2	動作分析①	C-2-2	佐々木
3・4	動作分析②	C-2-2	
5・6	理学療法評価①	E-4-1	
7・8	理学療法評価②	E-4-1	
9・10	理学療法評価③	E-4-1	
11・12	中枢分野臨床推論①	E-3.-4	
13・14	中枢分野臨床推論②	E-3.-4	
15・16	中枢分野臨床推論③	E-3.-4	
17・18	整形分野臨床推論①	E-3.-4	
19・20	整形分野臨床推論②	E-3.-4	
21・22	整形分野臨床推論③	E-3.-4	
23・24	神経筋分野臨床推論①	E-3.-4	
25・26	神経筋分野臨床推論②	E-3.-4	
27・28	神経筋分野臨床推論③	E-3.-4	
29・30	到達度確認	E-3.-4	

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	小テスト		評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：授業中の小テストを実施し、評価する。

科目区分： 理学療法治療学

令和7年度

科 目 名	臨床理学療法学演習Ⅲ（総合臨床）	単位数	2	学科	理学夜間	期	後期
		時間数	60	学年	4	区分	必修

科目担当責任者	佐々木康大	実務 経歴	中枢神経系疾患の臨床および地域リハビリテーションへの展開に5年以上携わってきた。当校においても中枢神経障害系理学療法学、地域理学療法学の教育を担当している。
担当教員	佐々木康大		
概要	理学療法を行う上で必要な治療に関わる知識、技術を演習・修得する。		
一般目標（GIO）	国家試験問題を中心に理解し、基礎から臨床まで幅広く理解してもらうことを目標とする。臨床理学療法学演習Ⅰの復習及び臨床実習で得た経験から、実地問題についても対策を図る。		

教科書	
参考書・教材	他 適宜資料を配布する。
履修上の注意点	

実施回	授業内容	対応 CC	担当教員
1・2	理学療法評価①	E-4-1	佐々木
3・4	理学療法評価②	E-4-1	
5・6	義肢学	E-6-4	
7・8	装具学	E-5-3	
9・10	内部障害理学療法(呼吸器疾患)	E-6-5	
11・12	内部障害理学療法(循環器疾患)	E-6-5	
13・14	内部障害理学療法(循環器疾患)	E-6-5	
15・16	内部障害理学療法(代謝疾患)	E-6-5	
17・18	脳血管障害	D-9	
19・20	脳血管障害の検査・治療、高次脳機能障害	E-6-2	
21・22	理学療法概論	E-1-1	
23・24	整形外科理学療法	E-6-1	
25・26	物理療法	E-5-2	
27・28	理学療法研究法等	E-5-5	
29・30	発達系理学療法学	E-6-4	

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	小テスト		評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：授業中の小テストを実施し、評価する。